

(参考)

ERC 総務課 ← ERC 住民安全班

3/27 17<sup>35</sup> 本番にて原簿回答はした

## 現地の確認について (回答)

平成23年3月27日  
原子力災害対策本部  
事務局 住民安全班

平成23年3月27日15時30分付け依頼のありました確認事項については下記のとおり回答いたします。

### 記

#### 1. 残留している住民の生活状況について (集団で生活しているのか等)

ポイント31、32 (浪江町) 近傍については、3月26日に現地対策本部が浪江町に確認した情報。

該当者については浪江町の各地区の区長が個別に確認を行い、大半の人数が自分の家屋内にいることを確認している。

ポイント33 (飯舘村) 近傍については、同村の簡易水道の利用制限が出された際に、同村役場が水の配布を行った時点で、同村内の各地区ごとに配布数を確認したもの。

飯舘村には避難所が開設されておらず、大半の人数が自分の家屋内にいると考える。

半径1km近傍の残留人数は確認ができていないが、半径1km圏はすべて同村長泥地区に含まれ、最大114人。元の資料にその旨追記した。また、蕨平、長泥の合計は178人と修正。

なお、半径1km近傍の家屋数を住宅地図上で集計した数は43戸程度。

#### 2. ポイント31、32、33付近の避難所のリスト (地図) について

浪江町及び飯舘村 (ポイント31～33) 近傍には現在避難所は開設されておりません。

比較的空間線量率が高いモニタリング地点の状況について

平成 23 年 3 月 27 日  
原子力災害対策本部事務局

文部科学省が実施しているモニタリングにおいて、局所的に比較的高い空間線量率が観測されている 31、32、33 地点の付近の住人の有無については以下のとおり。

(3 月 26 日現在)

地点	線量率	市町村名	モニタリング地点 の半径 1km 近 傍の残留人数	モニタリング地点を含む集落地区	
				残留人数	地区名 (30km 圏内外)
31	20.0 $\mu$ Sv/h	浪江町	30 人 <sup>※1</sup>	128 人程度 <sup>※2</sup>	つしま しもつしま みなみ 津島地区 (津島、下津島、南 つしまうえ みなみつしまはつけ 津島上、南津島下、羽附、 あこうぎ おおひる てしちろう 赤宇木、大屋、手七郎)
32	46.0 $\mu$ Sv/h		3 人 <sup>※1</sup>		
33	26.0 $\mu$ Sv/h	飯舘村	最大 114 人 <sup>※3</sup>	178 人程度 <sup>※4</sup>	わらびだいら ながどろ 蕨平、長泥

- ※ 1 残留者確認後の住所から確認した集計結果 (浪江町のみ)
- ※ 2 津島地区全体についての残留者数 (現地対策本部が 26 日に浪江町に確認した残留者数)
- ※ 3 長泥地区の残留者が 114 名であり、1km 圏はその内数。1km 圏内について住宅地図から数えられる事故前の家屋数は 43 戸程度。
- ※ 4 村全体に対して自主避難の呼びかけを行った上で残っている人数

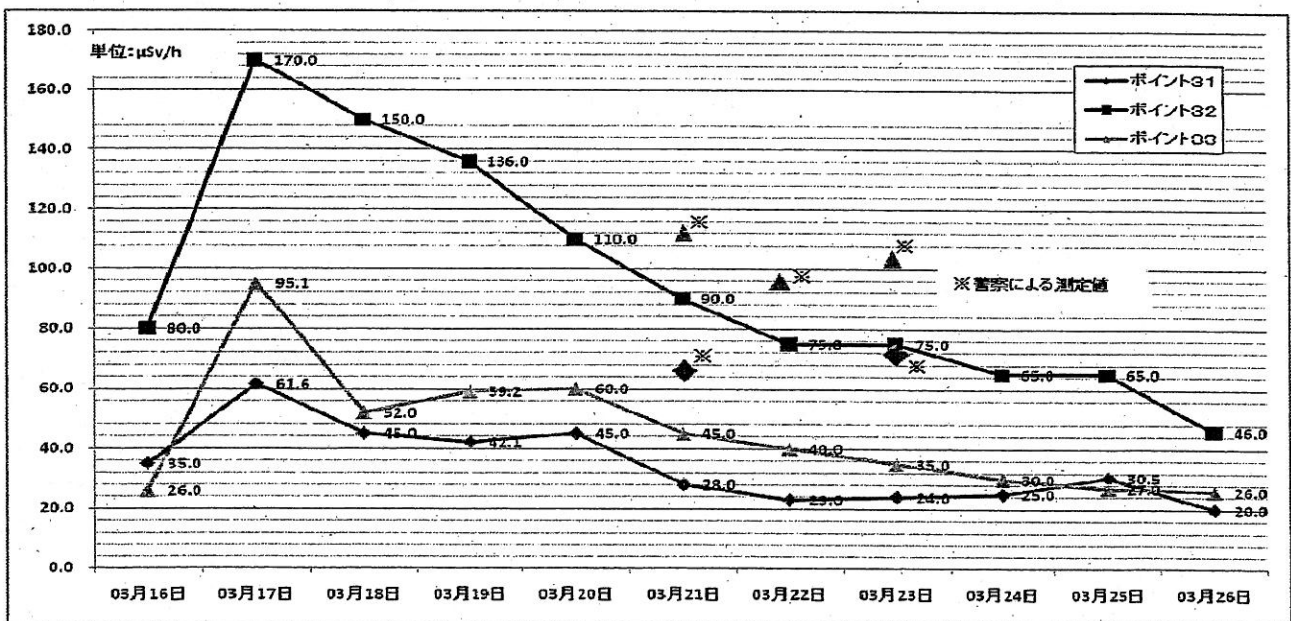


図. 当該ポイントにおける空間線量率推移

避難者受入状況一覧表【市町村別】

市町村名	避難所数(箇所)	受入者あり(箇所)		受入者なし(箇所)		受入者数(人)		備考
			前日との比較		前日との比較		前日との比較	
1 福島市	32	30	△3	2	0	4,142	△91	
2 二本松市	22	19	0	3	0	2,838	18	
3 伊達市	9	8	0	1	0	753	△23	
4 本宮市	2	2	0	0	0	152	0	
5 桑折町	2	2	0	0	0	80	△3	
6 国見町	3	3	0	0	0	118	△1	
7 川俣町	1	1	0	0	0	365	0	
(伊達郡計)	6	6	0	0	0	563	△4	
8 大玉村	1	1	0	0	0	68	△7	
(安達郡計)	1	1	0	0	0	68	△7	
9 郡山市	52	52	△5	0	△3	4,893	△308	
10 須賀川市	13	13	△1	0	△2	853	△93	
11 田村市	10	9	0	1	0	2,598	△48	
12 鏡石町	3	3	0	0	0	88	1	
13 天栄村	0	0	0	0	0	0	0	
(岩瀬郡計)	3	3	0	0	0	88	1	
14 石川町	1	1	0	0	0	295	0	
15 玉川村	1	1	0	0	0	60	△22	
16 平田村	1	1	0	0	0	91	△2	
17 浅川町	1	1	0	0	0	64	△11	
18 古殿町	1	1	0	0	0	102	△43	
(石川郡計)	5	5	0	0	0	612	△78	
19 三春町	7	7	△1	0	0	639	△24	
20 小野町	1	1	0	0	0	431	11	
(田村郡計)	8	8	△1	0	0	1,070	△13	
21 白河市	4	4	0	0	0	233	△32	
22 西郷村	3	3	0	0	0	532	△59	
23 泉崎村	2	1	0	1	0	18	△3	
24 中島村	1	1	0	0	0	19	△6	
25 矢吹町	3	2	0	1	0	212	0	
(西白河郡計)	9	7	0	2	0	781	△68	
26 棚倉町	1	1	0	0	0	30	0	
27 矢祭町	1	1	0	0	0	32	△4	
28 楳町	2	2	0	0	0	68	△17	
29 鮫川村	1	1	0	0	0	10	△9	
(東白川郡計)	5	5	0	0	0	140	△30	
30 会津若松市	9	9	0	0	0	1,086	△30	
31 喜多方市	6	1	0	5	0	356	5	
32 北塩原村	2	2	0	0	0	120	0	
33 西会津町	1	1	0	0	0	64	0	
34 磐梯町	2	2	0	0	0	259	9	
35 猪苗代町	4	2	0	2	0	706	△26	
(耶麻郡計)	9	7	0	2	0	1,149	△17	
36 会津坂下町	3	3	0	0	0	430	△9	
37 湯川村	2	2	0	0	0	98	△9	
38 柳津町	2	1	0	1	0	82	3	
(河沼郡計)	7	6	0	1	0	610	△15	
39 三島町	1	0	0	1	0	0	0	
40 金山町	3	0	0	3	0	0	0	
41 昭和村	3	1	1	2	△1	3	3	
42 会津美里町	6	6	0	0	0	1,052	0	
(大沼郡計)	13	7	1	6	△1	1,055	3	
43 下郷町	2	1	0	1	0	21	0	
44 檜枝岐村	1	1	0	0	0	109	0	
45 只見町	2	1	0	1	0	10	0	
46 南会津町	16	4	0	12	0	56	0	
(南会津郡計)	21	7	0	14	0	196	0	
47 沼島市	8	8	△1	0	0	2,296	△133	
48 南相馬市	3	3	0	0	0	153	5	
49 広野町	0	0	0	0	0	0	0	
50 楢葉町	0	0	0	0	0	0	0	
51 富岡町	0	0	0	0	0	0	0	
52 川内村	0	0	0	0	0	0	0	
53 大熊町	0	0	0	0	0	0	0	
54 双葉町	0	0	0	0	0	0	0	
55 浪江町	0	0	0	0	0	0	0	
56 葛尾村	0	0	0	0	0	0	0	
(双葉郡計)	0	0	0	0	0	0	0	
57 新地町	5	5	0	0	0	715	△25	
58 飯館村	0	0	0	0	0	0	0	
(相馬郡計)	5	5	0	0	0	715	△25	
59 いわき市	72	63	0	9	△6	3,864	△190	
合計	334	288	△10	46	△12	31,264	△1,173	

屋内退避区域圏内市町村における残留住民の状況及び  
比較的空間線量率が高いモニタリング地点の状況について

平成 23 年 3 月 24 日 8:00  
原子力災害現地対策本部事務局

1. 屋内退避区域圏内市町村における残留住民の状況

屋内退避区域の圏内に住民が残留している市町村名、残留者数、及び役場機能の有無は以下のとおり。

(3月23日現在)

市町村名	残留者数	役場機能の有無	(参考) 災害対策本部設置箇所
南相馬市	約 3 万人 (1~2 万との 情報も有)	有	南相馬市役所 (30km 圏内)
飯館村	178 人	有	飯館村役場 (30km 圏外)
浪江町	約 150 人	無	二本松市東和支所 (30km 圏外)
葛尾村	約 30 人	無	会津坂下町川西公民館 (30km 圏外)
川内村	約 45 人	無	ビッグパレットふくしま (30km 圏外)
田村市	約 700 人	有	田村市役所 (30km 圏外)
広野町	約 20 人	無	小野町町民体育館 (30km 圏外)
いわき市	約 500 人	有	いわき市消防本部 (30km 圏外)
楢葉町	0 人	無	いわき市中央台南小学校 (30km 圏外)

※1 このほか、広野町内の病院において、本人の希望や症状等により 37 名が残留している。

※2 自宅に要介護者等がいる場合もあり、自治体等が各戸訪問等を実施して、詳細を確認中。

## 2. 比較的空間線量率が高いモニタリング地点の状況

文部科学省が実施しているモニタリングにおいて、局所的に比較的高い空間線量率が観測されている 31、32、33 地点の付近の住人の有無は、以下のとおり。

(3月22日現在)

地点	放射線量	市町村名	地区名	残留人数
31	74 $\mu$ Sv/h (23日10時)	浪江町 <sup>※1</sup>	津島(つしま)等	0~150人
32	75 $\mu$ Sv/h (23日12時)			
33	103 $\mu$ Sv/h (23日9時)	飯舘村 <sup>※2</sup>	蕨平(わらびだいら)	64人
			長泥(ながどろ)	114人

※1 町をあげて避難を行っており、詳細の把握に努めているが、時間を要している。

※2 自主避難の呼びかけを行った上で残っている人数。

避難指示の地域の変更と対象人数

平成23年3月23日13時時点

	総人口 (人)	現状	変更後	今回の避難指示の対象人口	備考
0-20km圏内 該当市町村	双葉町	全域避難指示	変更なし	0	
	大熊町	全域避難指示	変更なし	0	
	富岡町	全域避難指示	変更なし	0	
0-20km圏内 及び20-30 km圏内に該 当する市町 村	浪江町	20-30km屋内退避	全域避難指示	P	20-30kmの屋内退避残留150名
	楢葉町	20-30km屋内退避	全域避難指示	0	20 残留者数
	広野町	20-30km屋内退避	全域避難指示	0	20-30kmの屋内退避残留45名
	川内村	20-30km屋内退避	変更なし	30,000	残留者数。最大の見積もり
	南相馬市	20-30km屋内退避	全域避難指示	30	残留者数
	葛尾村	20-30km屋内退避	全域避難指示	0	20-30kmの屋内退避残留700名
	田村市	20-30km屋内退避	変更なし	P	
	飯館村	20-30km屋内退避	全域避難指示	132,248	屋内退避残留500名
20-30km圏 内のみ該 当する市町 村	いわき市	20-30km屋内退避	該当地域のみ避難指示	5,710	
	久之浜、大 四倉		久之浜、大 四倉	15,086	
	平		平	98,207	
	好間		好間	13,245	
新たに該当 する市町村	川俣町	なし	全域避難指示	15,758	別途、避難所2箇所にて避難者432 名あり
	伊達市	なし	該当地域のみ避難指示	12,814	
	月館 霊山		月館 霊山	4,075 8,739	
			合計	190,870	以上

高07128  
14326990126

Ofc 高田社 ← ERC 田中  
 避難指示の地域の変更と対象人数 (案)  
 作成中のイメージです。伊達、生越、五里、と  
 御相談下さい

平成23年3月23日13時時点

	総人口(人)	現状	変更後	今回の避難指示の対象人口	備考
0-20km圏内該当市町村					
双葉町	7,359	全域避難指示	変更なし	0	
大熊町	11,006	全域避難指示	変更なし	0	
富岡町	16,142	全域避難指示	変更なし	0	
浪江町	21,044	20-30km屋内退避	全域避難指示	P	20-30kmの屋内退避残留150名
楢葉町	8,175	20-30km屋内退避	全域避難指示	0	
広野町	5,521	20-30km屋内退避	全域避難指示	20	残留者数
川内村	3,123	20-30km屋内退避	変更なし	0	20-30kmの屋内退避残留45名
南相馬市	72,578	20-30km屋内退避	全域避難指示	30,000	残留者数。最大の見積もり
葛尾村	1,570	20-30km屋内退避	全域避難指示	30	残留者数
田村市	44,131	20-30km屋内退避	変更なし	0	20-30kmの屋内退避残留700名
飯館村	6,663	20-30km屋内退避	全域避難指示	P	
いわき市	344,933	20-30km屋内退避	該当地域のみ避難指示 20-30kmの非該当地域 は屋内退避のまま	20,796	屋内退避残留500名
久之浜、大久	5,710		久之浜、大久	5,710	
四倉	15,086		四倉	15,086	
川俣町	15,758	なし	全域避難指示	15,758	別途、避難所2箇所避難者 432名あり
伊達市	67,154	なし	該当地域のみ避難指示	12,814	
月館	4,075		月館	4,075	
霊山	8,739		霊山	8,739	
20-30km圏内のみ該当する市町村					
該当する町全域					
該当地域のみ					

合計 79,418 以上

✳ 要確認  
 ✳ 要確認  
 ✳ 要確認

○アスコミに(は) 流さなければいけません

部外秘

H23.3.23 9:00現在  
福島県災害対策本部総括班

20~30KM圏内市町村における自宅待避住民への医療対策関係資料

市町村名	災害対策本部設置場所	担当者	対象区域	推計人口	残留者	在宅患者	移動可能患者	30KM圏内の診療機能	30KM圏外の近隣診療所	2,3次病院	備考
南相馬市	南相馬市役所(30KM圏内)	大和田課長	旧鹿島町の一部を除く全域(旧小高町は20KM圏内)	約6万人	約3万人						全域30KM圏内
飯館村	飯館村役場(30KM圏外)	杉岡、鎌田(県派遣)	蔵平・長泥地区	446人	17名						一部30KM圏内
浪江町	二本松市東和支所(30KM圏外)	上田課長	津島(上津島を除く)、その他地区は20km圏内	約1500人	約150人						全域30KM圏内
葛尾村	会津坂下町川西公民館	金谷(ピンタニ)課長	全域	1,485人	約30人						全域30KM圏内
川内村	ビッグパレット(30KM圏外)	井出総務課長	上川内、(下川内(20km圏内))	2,893人	約45人						全域30KM圏内
田村市	田村市役所(30KM圏外)	半谷課長	旧郡原村全域、旧船引町(日向前、風呂前)、旧常葉町(楯田)	約1,300人	約700人						一部30KM圏内
広野町	小野町民体育館(30KM圏外)	根本福祉リーダー	全域	5,385人	約20人						全域30KM圏内
いわき市	いわき市消防本部(30KM圏内)	阿部行経次長	久ノ浜大久、川前、上小川、四倉(八ヶ)	1,967人	約500人						一部30KM圏内

- 対応要員: 医師会、DMAT、日赤、自衛隊、消防本部、緊急消防援助隊、民生委員等
- 30km圏内の在宅患者のうち、県外の医療施設等への搬送を必要とする人数の把握と、患者搬送手段の確保
- 30km圏内: 残存診療機能の活用、自衛隊による巡回診療(暫定措置)
- 30km圏外: 拠点病院及び残存診療所の活用、臨時診療所の開設、救急搬送はトリアージ導入、サーベイランスの実施体制確保

飯舘村の人数について

飲用水の配布数から想定して、3月22日現在で飯舘村に住んでいると思われる人数は3,325人程度、そのうち長泥地区と蕨平地区に住んでいると思われる人数は178人程度と考えられる。

役場機能を移転した町村の避難対応計画(3月24日15時時点)

原子力災害対策本部事務局

(手摺)

市町村名	市町村の災害対策本部設置場所	20-30km圏内人口(人)	市が把握している屋内避難人数	周知	避難方法	避難先	その他
広野町	小野町町民体育館(30km圏外)に移転	5,400	39	役場職員が災害対策本部からかけつけ、広報車で周知	体が不自由な人もいるため、自衛隊に依頼したい		※防災放送が壊れて使えない
川内村	郡山市ビッグパレット(30km圏外)	2,315	45	役場職員が災害対策本部から役場にいき、防災放送で周知	車がある人は自力、ない人は自衛隊に依頼(習志野自衛隊と調整済み)	確認中	
浪江町	二本松市東和支所(30km圏外)	1,169	150	役場職員が災害対策本部からかけつけ、広報車で周知	自衛隊に依頼したい。国にはバスを準備してほしい。ガソリンがない人多数。		※防災放送は本庁に行かないと使えない ※バスをお願いしても、圏内に来てくれなかったため、このようにすることがないよう国に依頼
葛尾村	会津坂下町川西公民館(30km圏外)	1,413	20	葛尾村役場にいる双葉広域消防が防災放送で周知	残留者は車で避難できることを確認済み		※葛尾村役場は、現在双葉広域消防の本部として利用されている

※3月24日時点で、OFCが町村担当者から聴取した結果

## 福島第一原子力発電所20～30km圏内（屋内退避区域）の

## 現状や地域のニーズの報告について

平成23年3月23日

原子力災害現地対策本部事務局

## 1. 圏域の現状

当圏域においては、市町村長等の判断に基づき、自主的な避難を実施しており、多くの住民が地域を離れている。

しかし、避難所生活には耐えられない、ふるさとを離れたくない、生活の基盤があるなどの理由から、少なからず圏域内での生活を継続している。

住民が残っているのは、12市町村のうち、いわき市、田村市、南相馬市、飯舘村、広野町、川内村、葛尾村の7市村であり、市町村毎の残留者の人数は、南相馬市で最大3万人、田村市で約700名、いわき市で約500名、その他市町村は数十名程度となっている。

なお、既存の市町村に役場機能が残っているのは、そのうちいわき市、田村市、南相馬市、飯舘村の4市村であり、当該市村では、基本的な行政サービスを継続している。

## 2. 地域のニーズ

## ①避難支援

基本的に自主的な避難は終わっているが、その後の環境の変化等により、避難を希望する住民がいる場合には、警察、消防、自衛隊等の協力を得て、県と原子力災害現地対策本部が連携して、避難所等への避難支援を行っている。

## ②安否確認

既存の市町村に役場機能を有しない場合には、情報提供にも限界があることから、警察、消防等によって安否の確認を行っている。これまでの安否確認の結果は、今後、県に報告される見込みである。

## ③物資

水・食料については、市町村等からの要請により、県の災害対策本部で対応しており、既存の市町村に役場機能を有する場合には基本的に充足している。また、日用品については、一部に不足はあるものの比較的物資は入ってきており、現状の搬送状況から今後充足されていくものと思われる。

なお、ガソリン、軽油、灯油等の燃料については、依存として不足しており、今般、福島県から国への要請により合計で600klの支援があったが、今後も引き続き、支援が必要になる可能性がある。

特に、役場機能を有しない場合には、行政からの支援が得がたいため、個別の対応が求められており、警察、消防等の安否確認との連携が必要となる。

④医療・医薬品の不足

相双地方は、元々医師不足の地域であり、屋内退避等の圏域になったことから、特に医療が不足していると想定されるが、状況を確認中である。

医薬品の状況についても同様である。

⑤広報・情報提供

役場機能を有している場合には、防災行政無線や広報車、広報誌、行政区長等による情報提供が行われている。

しかし、役場機能を有しない場合は、安否確認やホームページ等により対応せざるを得ない状況から、今後、個別の対応が必要である。

⑥ライフライン

依然として、福島県内の一部の地域において、停電や電話の不通、断水などの状況下にあることから、早期のライフラインの復旧が求められる。

3. 風評被害

水道水や原乳等から食品衛生法上の暫定規制値を超過した数値が検出されているため、出荷制限対象品目以外の福島県産の農作物についても影響が懸念されている。

また、福島県内の人がホテルに宿泊する際に断られた事例がある。(本件に関し、厚生労働省から旅館組合等に対し、過剰な反応を控えるよう通知を発出している。)

<20~30km圏内の市町村の避難状況(市町村別)>

原子力災害現地対策本部事務局

資料1

市町村名	市町村の災害対策本部 設置場所	総人口 (人)	20-30 圏内 人口(人)	県が把握して いる避難者 数(人)	県が把握している現在の避難場所	県から国への避難支援の要望 (16日現在)	備考
浪江町	二本松市東和5号所 (30km圏外)	21,044 主に20km圏内	1,169	2,926	旧東和町小学校、川俣小学校の公 共施設	現時点では無 (状況が変われば検討)	
広野町	小野町町民体育館 (30km圏外)に移転	5,521	5,400	858	小野町、いわき市、石川町、浅川 町、平田村、埼玉県三郷市	無(町で対応)	
川内村	郡山ビッグパレット (30km圏外)	3,123	2,315	859	郡山市ビッグパレット等	無(村で対応)	
南相馬市	市役所 (30km圏内)	72,578 差数の多くは20km圏内	47,689	3,000程度	20~30km圏外に引き続き市役所・ 市民在住	有(スクリーニング)	資料2参照
飯館村	飯館村役場 (30km圏外)	6,663 主に30km圏外	103	2,000程度	栃木県鹿沼市等	有(スクリーニング)	資料2参照
葛尾村	会津坂下町川西公民館 (30km圏外)	1,570	1,413	613	会津坂下町、福島市等	無(村で対応)	
田村市	市役所 (30km圏外)	44,131 主に30km圏外	3,229	580	デンソー等	現在の指定範囲では無(指定範 囲が拡大すれば有(全市民))	
いわき市	市消防本部 (30km圏外)	344,933 主に30km圏外	4,860	784	いわき市内郷、常磐地区	現在の指定範囲では無	
合計		499,563	66,178	11,620程度			

<20km圏内の市町村の避難状況>

市町村名	市町村の災害対策本部 設置場所	総人口 (人)	県が把握して いる避難者 数(人)	県が把握している現在の避難場所	県から国への避難支援の要望 (16日現在)	備考
双葉町	川俣合宿所 (30km圏外)	7,359	1,200	さいたまスーパーアリーナ	無(町で対応)	
大熊町	田村市体育館 (30km圏外)	11,006	2,700	田村市内	無(町で対応)	
楢葉町	いわき市中央台南小学校 (30km圏外)	8,175	1,356	いわき市内	無(町で対応)	
富岡町	郡山ビッグパレット (30km圏外)	16,142	1,497	郡山市ビッグパレット等	無(町で対応)	
合計		85,364	6,753			

物資支援調整 ← (EKC 銀輪班 由良 → 官邸にガス 杯撤)

3月22日 23:30発

緊急対策本部・原子力災害対策本部

← 福島・現地連絡対策室 (岡崎・斎藤 [redacted])

**【緊急】福島県より原発周辺地域への物資(燃料)支援の要望について**

(追加分)

福島県より、福島原発周辺地域向けの物資(燃料)支援の要望がありましたので、調整をお願いいたします。

1. 要望内容:

福島原発周辺地域は、避難指示地域の20km圏内からの避難者が大勢おり、その方々の外側地域への移動や避難所等での生活支援のための燃料が至急必要。3月19日付要望により、供給されたものの、需要が多く、さらに供給が必要なことから、以下の燃料の輸送をお願いしたい。

ガソリン: 235キロリットル

2. 要望の理由:

(別紙1: 福島原発周辺地域の避難の現状) のとおりであり、福島県としては、引き続き自主的に避難する方々を支援するとともに、避難所、病院等でとどまる方々の生活の円滑化を支援することが緊急課題。

エリア	現状	対応の方向性
~20km	基本的に避難済み	
20~30km	人口の半分程度はすでに外側地域へ避難して、現在2万人程度と想定	・さらに外側地域への自主避難の方の移動支援 (ガソリン、軽油) ・避難所、病院等でとどまる方の生活支援 (灯油、ガソリン等)
30km~	30km内地域から多くの避難者を親類、知人、避難所で受け入れており、現人口は相当増加。そのため、一層燃料の入手が困難	・さらに外側地域または広域への自主避難の方の移動支援 (ガソリン、軽油) ・生活住民増加に伴う生活円滑化のための支援 (灯油、ガソリン等)

3. 輸送方法:

(別紙2: 福島原発周辺地域へ燃料輸送先SS) まで燃料を輸送したいので、以下をお願いしたい。

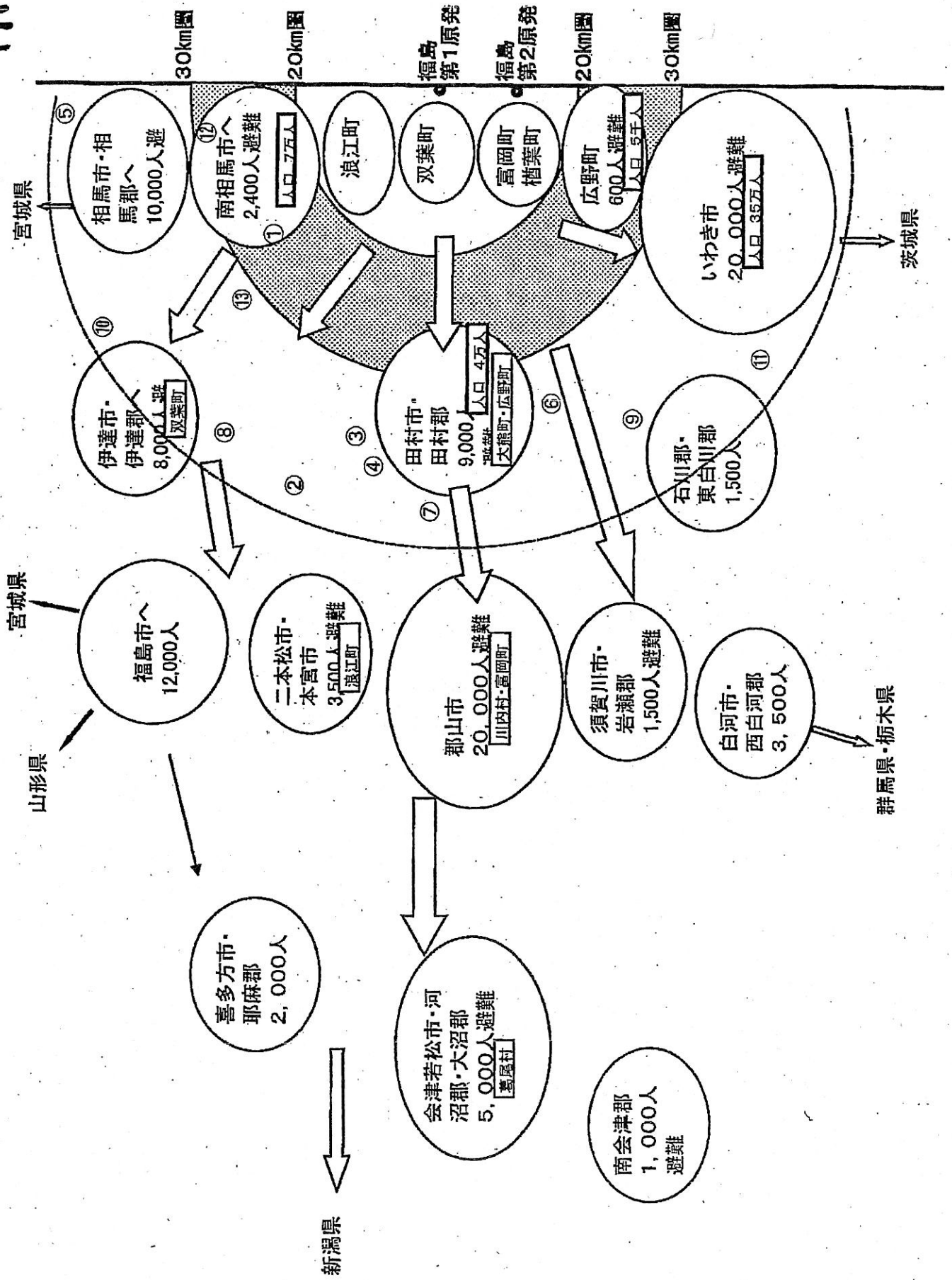
- (1) 郡山市内等で保管されているローリーを活用し、指定された油槽場へ取りに行き、輸送先SSへの供給する。
- (2) ドライバーについては、輸送先SSが原発周辺地域であることから、自衛隊に方をお願いしたいので、防衛省にも協力をお願いしたい。
- (3) 窓口担当は、

福島県災害対策本部 燃料担当 (鈴木精 [redacted] 中村)

以上

福島原発周辺地域の避難状況について

別添1



31542

物質調達状況 (物質調達関係者記入欄)

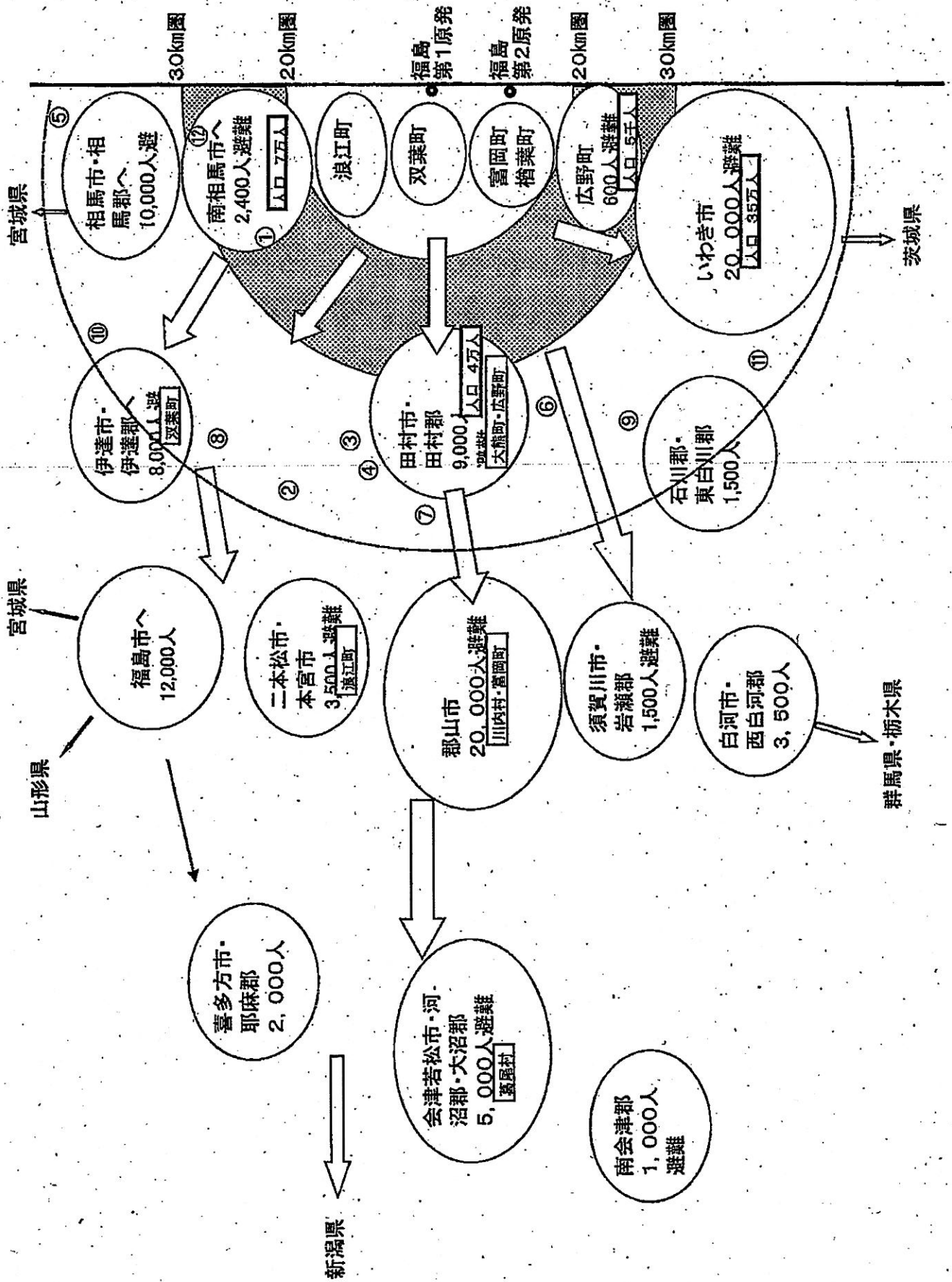
発注番号	要請元情報		供給元情報				発地				
	所産省	対成状況 (日替)	担当先 (電話番号)	品目	品目細分	数量	単位	物質名	企業名	担当者 (電話番号)	施設名
福島県大至急①	福島県	福島県災害対策本部物資班 福本班一(すずきいひさ)	密相馬市鹿島区鹿島字町16 (株)共成商店 鹿島北給油所	ガソリン		20,000	リットル	9802セル			
福島県大至急②	福島県	福島県災害対策本部物資班 福本班一(すずきいひさ)	二本松市寛和町計道字町116 大屋 工式オオ菜和給油所	ガソリン		10,000	リットル	JK			
福島県大至急③	福島県	福島県災害対策本部物資班 福本班一(すずきいひさ)	田村市船引町大字窪山字窪 森10 (株)体々本商店 船引之 々一給油所	ガソリン		20,000	リットル	JK			
福島県大至急④	福島県	福島県災害対策本部物資班 福本班一(すずきいひさ)	田村市船引町大字船引字中 島67-1 置本商店 船引中島給油所	ガソリン		20,000	リットル	JK			
福島県大至急⑤	福島県	福島県災害対策本部物資班 福本班一(すずきいひさ)	相馬市塚の町2-8-12 (株)立合商會 相馬中村給 油所	ガソリン		20,000	リットル	JK			
福島県大至急⑥	福島県	福島県災害対策本部物資班 福本班一(すずきいひさ)	田村郡小野町大字小野新町 字中澤1 (有)藤田石油店 小野町給 油所	ガソリン		20,000	リットル	エクソ モーセル			
福島県大至急⑦	福島県	福島県災害対策本部物資班 福本班一(すずきいひさ)	田村郡三桑町字一本杉29 (有)宗徳商店 三桑給油所	ガソリン		10,000	リットル	出光			
福島県大至急⑧	福島県	福島県災害対策本部物資班 福本班一(すずきいひさ)	伊達郡川俣町大字川俣町字城 東1 (株)津田 川俣ハイパス店	ガソリン		20,000	リットル	JK			

物質調達状況 (物資調達関係者記入欄)

受付番号	所轄省庁	対象状況 (日付)	要請元情報				供給元情報						
			依頼者 (電話番号)	施設名	担当者 (電話番号)	品目	品目細分	数量	単位	物資名	供給元		
											企業名	担当者 (電話番号)	供給量
福島県 大至急 ⑨		福島県災害対策本部物資班 鈴木裕一 (〒975-1115)	石川郡平田村大字上藤田字 新屋敷14 (有) 藤田自動車整備工場整 田給油所	[REDACTED]	ガソリン	ガソリン	15,000	リットル	JX				
福島県 大至急 ⑩		福島県災害対策本部物資班 鈴木裕一 (〒975-1115)	取台川郡湯田大字湯赤込町 1-33 東百商舎(後) 埼玉ハイパス給 油所	[REDACTED]	ガソリン	ガソリン	20,000	リットル	昭和シェル				
福島県 大至急 ⑪		福島県災害対策本部物資班 鈴木裕一 (〒975-1115)	伊達郡保原町上保原字北中 川原24-1 (株) 藤石油 パワーステ二 之店	[REDACTED]	ガソリン	ガソリン	20,000	リットル	伊藤氏				
福島県 大至急 ⑫		福島県災害対策本部物資班 鈴木裕一 (〒975-1115)	郡相馬市原町区香葉町7-2 (株) 相馬石油 エネルギー管理 店	[REDACTED]	ガソリン	ガソリン	20,000	リットル	どこでも可				
福島県 大至急 ⑬		福島県災害対策本部物資班 鈴木裕一 (〒975-1115)	相馬郡飯沼村飯沼字町80 市本屋	[REDACTED]	ガソリン	ガソリン	20,000	リットル	出光				
合計					ガソリン	ガソリン	235,000	リットル					



# 福島原発周辺地域の避難状況について



物資調達状況表(物資調達関係者記入欄)

表付番号	請求元情報		要請品目・数量				供給元情報			出発地	
	所管庁	依頼者 (電話番号)	品目	品目 細分	数量	単位	企業名	担当者 (電話番号)	供給量	担当者 (電話番号)	出発地
福島県 大至急①		福島県山形県本郷物産班 永山(267425)	ガソリン 軽油 灯油		20000 3000 10000	リットル	昭和シェル				
福島県 大至急②		福島県山形県本郷物産班 永山(267425)	ガソリン 軽油 灯油		20000 10000 10000	リットル	JK				
福島県 大至急③		福島県山形県本郷物産班 永山(267425)	ガソリン 軽油 灯油		20000 4000 20000	リットル	JK				
福島県 大至急④		福島県山形県本郷物産班 永山(267425)	ガソリン 軽油 灯油		20000 14000 20000	リットル	JK				
福島県 大至急⑤		福島県山形県本郷物産班 永山(267425)	ガソリン 軽油 灯油		20000 10000 20000	リットル	JK				
福島県 大至急⑥		福島県山形県本郷物産班 永山(267425)	ガソリン 軽油 灯油		13000 6000 10000	リットル	エソラン モデル				
福島県 大至急⑦		福島県山形県本郷物産班 永山(267425)	ガソリン 軽油 灯油		16000 15000 10000	リットル	出船				
福島県 大至急⑧		福島県山形県本郷物産班 永山(267425)	ガソリン 軽油 灯油		30000 30000 20000	リットル	JK				

物質調達状況(物質調達関係者記入欄)

受付番号	支払元情報				供給元情報				出発地			
	会社名(日英)	代表者(電話番号)	施設名	担当者(電話番号)	品目	品目細分類	数量	単位	物質名	企業番号	担当者(電話番号)	施設名
福島県 大至急 ⑨	福島県東部建設本部 本山(佐分利)	石川 隆平 田中 大志 上 藤田 孝 初彦 敏 14 (株)東田自動車整備工務店 田中 敏 函	ガソリン 軽油 灯油	18000 5000 5000	リットル	JK						
福島県 大至急 ⑩	福島県東部建設本部 本山(佐分利)	澤田 山 和雄 大 志 敏 函 東 白 崎 康 夫 高 山 敏 函	ガソリン 軽油	10000 18000 10000	リットル	昭和ビル						
福島県 大至急 ⑪	福島県東部建設本部 本山(佐分利)	伊藤 和雄 山 原 孝 一 川 原 24-1 (株)東石油 パワーエネ ジー	ガソリン 軽油 灯油	66000 20000 48000	リットル	伊藤ビル						
福島県 大至急 ⑫	福島県東部建設本部 本山(佐分利)	海相 隆平 市 原 敏 函 区 署 第 2-3 (株)相原瓦斯 エネルギー 産業	ガソリン	14000	リットル	北ごま町						
会社				264000 140000 183000	リットル							

3/17(木) 16:00

県、対策本部から双葉病院

県立いわき光洋高等学校（双葉病院）について

3月17日

- 医療法人博文会双葉病院  
双葉郡大熊町大字熊新町176-1

3月14日 未明

- 官邸危機管理センターからの電話
  - ・ 原発が危ないので病院等に残っている人々を明け方までに避難させること。
  - ・ 避難しない場合には、こちらは責任をとれない。
  - ・ この件は知事にも伝える。

○ 救出の状況

- ・ 3月14日から16日にかけて
- ・ 施設には、結果的に自力で歩くことができない、重篤な患者だけが残された。
- ・ ただちに病院・施設に自衛隊が救出に向かった。
- ・ 双葉病院には、病院関係者は一人も残っていなかったため、患者の状態等は一切分からないままの救出となった。
- ・ さらに、寝たきり老人等の重篤な患者であるため、困難な状況での救出となった。
- ・ 救助者は相双保健福祉事務所でスクリーニングを受けた後、バスでいわき光洋高校へ搬送した。(計 128名)
- ・ 緊急を要したため、避難先をいわき光洋高校とした。避難当時は病院等への搬送は困難であった。
- ・ 介護する人手が不足しているため、現地の職員を動員した。
- ・ 3月17日現在、14名の方が亡くなっている。(下記のとおり)
- ・ 残された人々については、現在、県立医大等の医療機関に受け入れ先の手配を行い移送済みである。

○ 亡くなられた方

男性 6名 女性 8名

福島県災害対策本部教授班

ERC

川島

給食班

医療班 ← ERC班 (菅野)

[発話文 20時15分以降解禁]

病院等から搬送を行った方のうち14名程度が亡くな  
っている模様。

[参考]

福島県は20時の定例会議にかけたのち、20:15頃に公表すること。

[現在の当院の公表]

- 福島第一原子力発電所20km圏外および福島第二原子力発電所10km圏外への避難は措置済み。
- 20km圏内に自主的にとどまっていた複数の方々も順次移動中の模様。
- 福島第一原子力発電所20kmから30km圏内の屋内待避について徹底中。

その後県としては、20時からの本部会費に拘り合えなかった(資料の調整について、インパクトが大きいので、出しちぎらぬ調整ありと県スタッフが連絡あり)。

「文言調整しようとして本部会費とぶら下がり終わり、今後出すには本件だけで公表せざるを得ない」と

本資料で西川審の時「国としては公表したい。県が公表すればいい」との考えに整理されたの

## お持ち

○相双保険所副所長から OFC に情報提供があったもの。

いわき光洋高校で双葉病院、ドーヴィル双葉から搬送された方、少なくとも  
12名が死亡している模様。

○19:30のOFCの確認で14名となっていることを確認。

住民避難の状況について(3月15日13時15分現在残留者数)

7:30で県に確認  
9:15で那子甲子青少年自  
然の家を確認

9:05で確認

13:25で確認

施設名	残留者数 (12:15現在)	備考
浪江西病院	0	75名移送終了 (福島県立医大に到着)
ドーヴィル双葉	0	100名移動終了 (磐城光洋高校に到着)
双葉病院	0	約100名が、磐城光洋高校に 到着の様様。
10km圏内合計	0	
オンファール双葉	0	197名が那子甲子青少年自然 の家に到着。2名については 移動中との情報があり、確認
小高赤坂病院	0	81名移動終了 (磐城光洋高校に到着)
20km圏内合計	0	

福島県等への聞き取り

OFCへの聞き取り

官邸リエゾンへの聞き取り

警察より、福島県立医大に移動したことを確認。防衛省より2:00に同所に到着した旨確認。(5:00聞き取り)

光洋高校に到着(2:50聞き取り)

・9:05に住民安全班サイトウに確認。正確な数は不明(59人?)であり、現在自衛隊に輸送依頼中。  
・10:20に住民安全班に確認。現在自衛隊が作業中である。現地には住民安全班、警察が立会。進捗不明であり、終了後報告となっている。現地とは連絡不能。

・7:30に県(佐久間)に64名は昨日までに移動した。96名が双葉病院に残っており、15日7:00頃に自衛隊が搬送に向かったと聞いている。行き先は光洋高校と聞いている。

・9:45光洋高校に確認。これまで双葉病院(トーヴィル双葉含む)から120名程度来ているが対応不能な為、医療機関へ再度移送を調整中。今後も双葉病院から搬送されてくるのか不明。

・防衛省に現地から入った情報。車両8台程度(自衛隊バス5台、大型バス2台、マイクロバス1台、その他車両)で作業。半分程度乗車させた状況とのこと。11時現在で厚労省が全体で97名と発表している。一度に搬送なのかピストンなのか不明。(11:20)

・搬送先は磐城光洋高校とのこと。(11:40)  
・12:00の情報で47名が病院を離脱。残り32名は推定49名程度。車両台数から推定するとピストン輸送ではないのではとのことだが詳細不明。(13:15聞き取り)

197名を相双保健所(スクリーニング)を経由して那子甲子青少年自然の家へ到着。残り2名の職員が15日中に到着予定。(9:15聞き取り)  
磐城光洋高校に81名到着済  
(21:15聞き取り)

この他、複数名が自主的に自宅に屋内待避している模様。それ以外の方々については、おおむね避難を終了。

官邸対策室 (左才へ総括)

3月14日 (月) 05:30

第1 原発避難について

1. 要救助者 (原発から 20km 圏内) 実態 (厚生労働省 05:00 現在)

連番	施設名	住所	残留者	
1	双葉厚生病院	双葉郡双葉町新山久保前 100	0	
2	今村病院	双葉郡喜岡町本岡関ノ前 243	0	
3	浪江西病院	双葉郡浪江町権現堂下柳町 6 (自衛隊バス対応: 調整済)	75	
4	ドーナツ双葉	双葉郡大熊町熊新町 369-1 (自衛隊バス対応: 調整済)	100	
5	双葉病院	双葉郡大熊町新町 176-1 (自衛隊バス対応: 調整済)	81	
小計 (10km 圏内合計)			255	
6	ホテル双葉	双葉郡浪江町末森八合田 134 (自衛隊バス対応: 調整済)	279	
7	ひまわり荘	双葉郡浪江町加倉今神 78	0	相双 保健所
8	小坂赤坂病院	南相馬市小高片草秩父山 24 (自衛隊バス対応: 調整済) ※ 3, 4, 5, 6 対応後移動	81 名	磐城光陽高校
9	南相馬市立小 高病院	南相馬市小高東町 3-8	0	原町市立病院
合計 (20km 圏内合計)			615	

2. 使用可能輸送力

	バス (国交準備)	バス (自衛隊)	ヘリ
警察	7 台 (待機中)		
防衛省	21 台 (調整中)	連番 3, 4, 5, 6 対応	待機中

3. 20km 圏内の輸送に関して

ほとんどが、要救助者。

合計 617 名 (内訳: 615 名 (要救助者リスト) + 2 名)

11-03-14-06:44/001-001

1-222011

1-222011

Form: OFC 甲斐

To: ERC 佐良安全班 菅原様



RC  
計画班  
医療班  
RC  
↑  
情報班  
(管小)

避難住民の死亡等について (福島第一原発)

平成23年3月17日

1 避難状況について

双葉病院の入院患者及び老人健康保健施設ドーヴィル双葉の入所者が相双保健所(南相馬市)でのサーベイを受けて、いわき光洋高校の体育館に3月14日搬送された。

同校の校長が体育館を訪問してみると、寝たきり等の要援護者に対して、医師、看護師等の医療従事者が付き添っていないことから、県の災害対策本部と協議の上、開成病院へ搬送することとした。しかし、病院に向かったところ、病院の事務長からスタッフは提供するので高校に戻るよう指示があった。

このことをラジオ(コミュニティFM)でその状況を訴えるとともに、県災害対策いわき地方本部に搬送先がどうなっているのか確認した。

当該ラジオを聞いたかしま病院の看護師2人が同校体育館に来てみると、重症患者等に対してカルテもない状態に驚いた。

3月15日午前、患者等のトリアージを行い、県立医大に20人、県立会津に20人、竹田総合病院に15人、会津西病院に25人の合計80人をそれぞれ搬送した(常磐交通バス: 県立医大1台、会津方面2台)。 計80名と後に死亡

なお、依然として、同校体育館に51人(要介護者31人(双葉ドーヴィル)、20人(双葉病院)の受け入れ先の決まっていない患者等があり、鹿島病院いわき本部の事務4人とボランティアの看護師(かしま病院)2人で世話をしている。

このうち、搬送の前(病院等の医療スタッフが避難するまで)まで酸素吸入や点滴をされていたと思われる患者等が10人程度はおり、また、危ない状態の患者等が4~5人はいる。

(※別紙「避難所: いわき光洋高校における要援護者の状況について」参照)

2 患者等の死亡について

前記のような状態の中で、少なくとも搬送中に10人、15日3時30分に1人、16日0時30分に1人の合計12人が亡くなっている(その後、2人亡くなり計14人となっている)。※3月17日朝のHK報道では、搬送中2名、他の病院に移るための待機中に12名死亡とされている。

今回避難した患者等は、避難地域が3km圏から10km圏に拡大された段階では、移動させるよりもそのままにした方が患者のためにいいと診断された者であり、地域がより危険な状態になったことから避難させることとなったため、双葉病院等のスタッフについては全員先に避難していたのが、このような事態を招いた一因であると考えられる。

3/17 11:05  
OFC 菅原様  
甲斐様へ

追記  
↓

なお、亡くなった人の一部については、医師が死亡診断書を書いているが詳細は不明。  
 また、亡くなられた人については、1階にパーテーションをつけて安置している状況。

3. マスコミ (NHK) 報道の内容

「原発の避難者 (いわき光洋高校) 14名が死亡した。2名は搬送中に、12名は避難中に死亡。

避難所には、医療スタッフ4名と最低限の医療機器しかなかった。ほとんどが寝たきりの高齢者であり、別の病院に移るために待機していた。」

なお、ニュースソースは、ラジオで話をした避難所のいわき光洋高校長であると思われる。NHKは、県の災害対策いわき地方本部に取材を行っている。

4. 県の対応

県としては、3の報道後の取材に個別対応しているが、マスコミへのプレス発表を  
考えている。

また、51名の要援護者等については、それぞれの症状 (要介護者、精神疾患、その他の病気等) ごとに、受け入れ先を選定している。

※ オフサイトセンターへの連絡者 相双保健所 笠原副所長

モンパ  
県庁新聞部 電話部 2011  
12月21日 11:20

・AM中に予定2件  
・プレス文字と発表時刻  
12月21日 11:20  
・状況把握中。

避難所：いわき光洋高校における要介護者の状況について

平成23年3月17日

1 人数等 (平成23年3月14日夜搬送)

51名	双葉病院入院患者	20名	
	老人健康保健施設ドーヴィル双葉入所者	31名	要介護者

20人  
31人

2 症状等

① 要介護者 (ドーヴィル双葉31名) ※3月16日に2名死亡

CV	3名
胃ろう	1名
自力歩行又は介助歩行	6～7名
食事介助	3名 末期

② 双葉病院入院患者 (20名)

ボランティアの看護師が2名いるが、特に手は掛けていない。

3 その他

3月15日朝搬送された約20名のうち、精神疾患である双葉厚生病院の外来や入院患者がいる。(一般住民も含む。)

20人

上記以外にも、搬送中20人いる模様  
(確認中)

要援護者の避難状況について

(7:50 県災害対策本部 救援班 ニイダ氏より聞き取り)

ERC 住民安全班

- ・避難所に避難している方々で、病気の方及び移動弱者等の状況について県に聞き取り。
- ・県ですべて把握しているわけではないが、磐城光洋高校に53名の方がいる。  
急な要請に伴い、一時的に同高校に移動せざるを得なかったとのこと。
- ・他の施設については、特に情報は得られていない。県としては、具合が悪くなった場合等は市町村レベルで「病院に搬送する」、「医療従事者」を呼ぶなどで対応していると認識。
- ・磐城光洋高校の患者については受け入れ先を探しているものの、県内の病院はほぼ満室で受け入れ先が見つからない。
- ・隣県（茨城、栃木）で受け入れ先を国が融通してくれると非常に助かる。  
ただし、磐城光洋高校内にはどのような科（精神科等）が何人いるかは把握していない。  
ただし、精神科の患者及び寝たきりの老人がいるということは認識している。
- ・もし、受け入れ先が融通できたら、救援班に直接ではなく、総括ラインを通して連絡してほしいとのこと。  
総括ライン (TEL: ██████████) 班長 モンマ氏

要援護者の避難状況について

(8:30 県災害対策本部 救援班 ウエノ氏より追加聞き取り)

- ・いわき光洋高校の患者53名はすでにスクリーニング及び除洗済。
- ・また、その他に伊達ふれあいセンター47名（いわき光洋高校に搬送予定）及び二本柳共生センター35名（いわき光洋高校に搬送予定）について、追加患者がいることが判明（いずれもスクリーニング及び除洗済）。計53+47+35名=135名について必要。

## OFC 総括班 → ERc 総括班

## 避難住民の死亡等について (福島第一原発)

平成23年3月16日

## 1 避難状況について

双葉病院の入院患者及び老人健康保険施設ドーヴィル双葉の入所者が相双保健所(南相馬市)でのサーベイを受けて、いわき光洋高校の体育館に3月14日搬送された。

同校の校長が体育館を訪問してみると、寝たきり等の要介護者に対して、医師、看護師等の医療従事者が付き添っていないことを不審に思い、ラジオ(コミュニティFM)でその状況を訴えるとともに、県いわき地方災対本部に搬送先がどうなっているのか確認した。

当該ラジオを聞いた鹿島病院の看護師2人が同校体育館に来てみると、重症患者等に対してカルテもない状態に驚いた。

3月15日午前、患者等のトリアージを行い、県立医大に20人、県立会津に20人、武田総合病院に15人、会津西病院に25人の合計80人それぞれ搬送した(常磐交通バス:県立医大1台、会津方面2台)。

なお、依然として、同校体育館に53人(要介護者33人(双葉ドーヴィル)、20人(双葉病院)の受け入れ先の決まっていない患者等があり、鹿島病院いわき本部の事務4人とボランティアの2人で世話をしている。

このうち、搬送直前まで酸素吸入や点滴をされていたと思われる患者等が10人ばかり、また、危ない状態の患者等が4~5人はいる。

## 2 患者等の死亡について

前記のような状態の中で、少なくとも搬送中に10人、15日3時30分に1人、16日0時30分に1人の合計12人が亡くなっている。

どうしてこのような状態で搬送されてきたのか疑問であり、双葉病院等のスタッフについては全員先に避難したと思われる。亡くなった人の一部については、死亡診断書を医師が書いている。

なお、亡くなられた人については、1階にパーテーションをつけて安置している状況。

※ 連絡者 相双保健所 笠原副所長

住民避難の状況について(14時20分現在残留者数)

施設名	残留者数 (14:20現在)	備考
浪江西病院	75	状況確認中
ドーヴィル双葉	0	100名全員移動終了(相双保健所)
双葉病院	48(確認中)	状況確認中(33名は相双保健所に到着)
10km圏内合計	123(確認中)	
オンフル双葉	279	状況確認中
小坂あかさか病院	81	状況確認中
20km圏内合計	483(確認中)	

この他、複数名が自主的に自宅に屋内待避している模様。  
それ以外の方々については、おおむね避難を終了。

◆避難及び広報状況◆

平成23年3月15日 17:00現在

避難等の内容		市町村名	人口	避難所等	避難手段	避難状況及び広報状況
避難／2F(10km圏)	屋内退避／1F(30km)	広野町	5,387	平田村公民館	バス等	・避難対象者は、5つの地区の800人程度であるが、町内の全域の避難を予定。対象者の避難は、ほぼ終了。 ・広報は、防災行政無線や広報車等により実施。
避難／1F(20km圏)	磐城高等専門学校					
避難／2F(10km圏)	屋内退避／1F(30km)	榎葉町	7,851	草野中学校 平第六小学校 いわき中央台南中学校	バス等	・避難は、ほぼ終了。 ・広報は、防災行政無線や広報車の他、原則として消防団による全戸訪問を実施。
避難／1F(20km圏)	川内村役場 郡山高等学校					
避難／1F(20km圏)	避難／2F(10km圏)	富岡町	15,786	都路中学校 常葉中学校 田村市総合体育館 いわき光洋高等学校	バス、自衛隊等	・避難は、ほぼ終了。 ・広報は、防災行政無線や広報車の他、原則として消防団による全戸訪問を実施。
避難／2F(10km圏)	川俣小学校					
避難／1F(20km圏)	避難／1F(20km圏)	浪江町	20,695	津島活性化センター 津島支所 津島小学校、津島中学校 国立医科大学、太陽の家 那須甲子少年自然の家 いわき光洋高等学校	バス、自衛隊等	・避難は、ほぼ終了。 ・広報は、防災行政無線や広報車等により実施。
屋内退避／1F(30km)	津島小学校					
避難／1F(20km圏)	屋内退避／1F(30km)	田村市	41,428	南相馬市立病院 郡山養護学校	バス、自衛隊等	・避難は、ほぼ終了。 ・広報は、防災行政無線や広報車等により実施。
避難／1F(20km圏)	川内村					
屋内退避／1F(30km)	避難／1F(20km圏)	葛尾村	1,482	川内村	バス、自衛隊等	・避難は、ほぼ終了。 ・広報は、防災行政無線や広報車等により実施。
屋内退避／1F(30km)	葛尾村					
屋内退避／1F(30km)	屋内退避／1F(30km)	飯館村	6,197	飯館村	バス、自衛隊等	・避難は、ほぼ終了。 ・広報は、防災行政無線や広報車等により実施。
屋内退避／1F(30km)	飯館村					

12:50 受付  
3/21 10:00 現在まで  
とりまじめ

# 福島第一原子力発電所 20～30km 圏 (屋内退避区域) 内の住民の自主避難及び生活に対する国の支援に ついて

平成 23 年 3 月 21 日  
原子力災害対策本部 事務局

- ・ 屋内退避区域内の市町村数 9 市町村  
(9 市町村とも、市町村の区域の一部が屋内退避区域)
- ・ 屋内退避区域内の人口 66,178 人  
(2005 年国勢調査の 1 km メッシュデータ)
- ・ 屋内退避区域内の在住者数 (3 月 19 日現在の情報)  
南相馬市 (屋内退避区域内人口 47,689 人)、いわき市 (同 4,860 人)、田村市 (同 3,229 人) は相当数の可能性あり。  
他の 6 町村は、それぞれ、0～50 人程度の模様。

## 1. 病気、介護が必要な方への自主避難への支援

### ・ 入院患者

屋内退避区域内の病院の入院患者について、福島県と協力都県間のマッチングを行い、搬送手続きを進めている。

6 病院、要搬送者数約 700 人のうち、約 600 人の搬送が 3 月 20 日までに終了。

残る約 100 人については、既に搬送先が決まっており、3 月 21 日以降搬送予定。【厚生労働省】

### ・ 介護施設入居者等

屋内退避指区域内の特養、老健施設などの入居者について、福島県と協力都県間のマッチングを行い、搬送手続き

を進めている。

18施設、定員約980人のうち、約790人の搬送が3月20日までに終了（ご家族で対応された方を含む）。

残る約190人については、既に搬送先が決まっており、3月21日以降搬送予定。【厚生労働省】

- ・3月17日から20日に25施設1208名について屋内退避区域の病院・施設等からの搬送を実施。【警察庁、消防庁、海上保安庁、防衛省】

## 2. 一般の住民の方の自主避難への支援

### (1) 受入施設の情報

- ・19日、福島県等の被災県からの県外避難者の宿泊が可能な施設について、名称・施設数及び受入可能者数等を取りまとめ、福島県等に情報を提供。【内閣府、国土交通省、各府省】

受入可能数：約2,500施設、約4万6千戸

- ・18日、各都道府県の被災者受入態勢・状況について、ホームページで公表。【総務省】

### (2) 移動手段の確保

- ・福島県の要請を受け、避難住民のスクリーニング等のため的高速道路のパーキングエリアの提供及び域外に移動した住民がさらに圏外へ移動する際の民間バスの手配について、福島県等に必要な情報を提供するための連絡体制を整備。【国土交通省】

- ・自衛隊バス車両を用いて移動を支援。【防衛省】
- ・3月18日から20日に、南相馬市から2,580人、飯舘村

から 511 人が福島県外へ移動

(3) 受入先自治体に対する援助

- ・ 19日、災害救助法の弾力的運用に関する通達を発出。県域を越えた避難についても災害救助費等負担金の国庫負担の対象となること等、各自治体からの問い合わせの多い事項について運用を明確化。【厚生労働省】

3. スクリーニングの実施

- ・福島県からの身体汚染スクリーニング等対応のための医師等の派遣斡旋の要請を受け、順次、医師等を派遣。【文部科学省、厚生労働省、経済産業省】

4. 物資の調達

- ・ 19日、福島県・現地連絡対策室から緊急対策本部及び原子力災害対策本部に対して、原子力発電所周辺（12カ所のうち1カ所が20～30km圏内。その他は30km圏外）の住民向けのガソリン等計600klについて支援要請あり。20日16時現在、全量を確認し、200klについて配送手配済み。その他の生活物資も調達。【経済産業省】
- ・被災者向けの食料品の調達。【農林水産省】
- ・屋内退避圏内への配送の一部を支援。【防衛省】

5. 気象情報の提供

- ・福島第一・第二原子力発電所周辺の気象の見通し等に関する気象支援資料をホームページで公開している他、関係機関にFAX等により情報提供。【気象庁】

- ・福島第一原子力発電所から半径30kmの領域に対し、空域  
気象情報（シグメット情報）の提供を開始。（3月17日  
～）【気象庁】
- ・経済産業省緊急時対応センター（E R C）や福島県庁に職員  
を派遣し、気象に関する情報提供や解説活動を実施。【気  
象庁】

3/17 15:10～

国交省 航空局

（パイロットに配布）

福島第一原子力発電所 20～30km 圏 (屋内退避区域)  
内の住民の自主避難及び生活に対する国の支援に  
ついて (3月21日 18:00 現在)

平成 23 年 3 月 22 日  
原子力災害対策本部 事務局

- ・ 屋内退避区域内の市町村数 9 市町村  
(9 市町村とも、市町村の区域の一部が屋内退避区域)
- ・ 屋内退避区域内の人口 66,178 人  
(2005 年国勢調査の 1 kmメッシュデータ)
- ・ 屋内退避区域内の在住者数 (3月19日現在の情報)  
南相馬市 (屋内退避区域内人口 47,689 人)、いわき市 (同  
4,860 人)、田村市 (同 3,229 人) は相当数の可能性あり。  
他の 6 町村は、それぞれ、0～50 人程度の模様。

## 1. 病気、介護が必要な方への自主避難への支援

### ・入院患者

屋内退避区域内の病院の入院患者について、福島県と協  
力都県間のマッチングを行い、搬送手続きを進めている。

6 病院、要搬送者数約 700 人の搬送が 3月21日まで  
に終了した。【厚生労働省】

### ・介護施設入居者等

屋内退避区域内の特養、老健施設などの入居者について、  
福島県と協力都県間のマッチングを行い、搬送手続きを進  
めている。

18 施設、定員約 980 人のうち、3月21日までに約

920人を搬送（ご家族で対応された方を含む）。

残る約60人については、既に搬送先が決まっており、

3月22日以降搬送予定。【厚生労働省】

- ・3月17日から21日に25施設1417名について屋内退避区域の病院・施設等からの搬送を実施。【警察庁、消防庁、海上保安庁、防衛省】

## 2. 一般の住民の方の自主避難への支援

### (1) 受入施設の情報

- ・19日、福島県等の被災県からの県外避難者の宿泊が可能な施設について、名称・施設数及び受入可能者数等を取りまとめ、福島県等に情報を提供。【内閣府、国土交通省、各府省】

受入可能数：約2,500施設、約5万戸

- ・18日、各都道府県の被災者受入態勢・状況について、ホームページで公表。【総務省】

### (2) 移動手段の確保

- ・福島県の要請を受け、避難住民のスクリーニング等のための高速道路のパーキングエリアの提供及び域外に移動した住民がさらに圏外へ移動する際の民間バスの手配について、福島県等に必要な情報を提供するための連絡体制を整備。【国土交通省】

- ・自衛隊バス車両を用いて一部の移動を支援。【防衛省】

### 福島県警等による移動の支援【警察庁】

- ・3月18日から20日に、~~幸馬馬市~~から2,580人、飯舘村から511人が福島県外へ移動

### (3) 受入先自治体に対する援助

- ・ 19日、災害救助法の弾力的運用に関する通達を発出。県域を越えた避難についても災害救助費等負担金の国庫負担の対象となること等、各自治体からの問い合わせの多い事項について運用を明確化。【厚生労働省】

### 3. スクリーニングの実施

- ・ 福島県からの身体汚染スクリーニング等対応のための医師等の派遣斡旋の要請を受け、順次、医師等を派遣。【文部科学省、厚生労働省、経済産業省】

### 4. 物資の調達

- ・ 19日、福島県・現地連絡対策室から緊急対策本部及び原子力災害対策本部に対して、原子力発電所周辺（12カ所のうち1カ所が20～30km圏内。その他は30km圏外）の住民向けのガソリン等計600klについて支援要請あり。既に全量を確保し、このうち21日中までに計380klを配送（20日に計220kl配送済み、21日に計160kl配送）。その他の生活物資も調達。【経済産業省】
- ・ 被災者向けの食料品や医薬品の調達。【農林水産省、厚生労働省】
- ・ 全日本トラック協会の協力を得て、屋内退避区域のための物資の配送を支援。【国土交通省】
- ・ 屋内退避区域内への配送の一部を支援。【警察庁、防衛省】